



こんにちは

# 村田 けい子

です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。  
移動事務所 090-9144-

2020.2.20  
№238

発行/日 3月 368 産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267 (56)

3月議会

## 「川西赤十字病院の存続と充実を求める陳情」他1件の陳情と請願が提出予定

NPO法人 未来工房望月（理事長 吉川徹氏）より、上記タイトルの陳情が出されており、3月議会社会文教建設常任委員会（3月11日9時開会）で議論の予定です。

この陳情は、厚労省の突然の発表で縮小統廃合の対象として2020年9月までに一定の方向を出すようにと指定されたことから、同法人が佐久市・東御市・立科町に対して、国への意見書を提出するよう求める陳情です。すでに12月議会において、佐久市では意見書が上がり、東御市では12月議会で審議され、再び3月議会で審議されることになっています。

川西日赤病院が川西地域（浅科・望月・立科・北御牧）において唯一の入院機能を持つ病院であり、地域包括ケア病床も設置され、地域住民にとってなくてはならない病院であることを述べ、国の縮小統廃合の指定から同院を外すよう求めるものとなっています。

国は、社会保障費の削減を狙い、2025年までにベッド数の削減を押し付け、診療報酬の削減などを強行しています。また10月26日には、高度急性期や急性期の機能を持つ公的病院に対し、実績の少ないものや、20分以内で行かれる近接した病院があるときに、縮小統廃合の対象となりうるとして、突然424の病院名を公表し、日本全国で大きな怒りと不安を巻き起こしています。

長野県では44の公立・公的病院のうち15病院が対象となり、2020年9月までに一定の方向を出すよう指示しています。

特に立科町周辺では、川西日赤、依田窪病院、東御市民病院、鹿教湯病院など軒並み名指しをされています。地域に住み続けるために不可欠な病院の統廃合は認められません。川西日赤では、病院の努力もあり、医師を3名増員し、住民のニーズにこたえて頑張っています。立科町の住民は病院への送迎に病院がバスを出すなど、経営改善の努力が重ねられています。

また、立科町を含む東部医療圏の医療関係者で、人口減少や高齢化なども踏まえた機能分担などの話し合いが進められている最中です。佐久市の柳田市長も「地域が頑張っているときに水を差す」とのコメントを信毎に寄せています。皆ではね返していきましょう。

### ●妊婦を対象として歯科健康診査の実施を求める陳情書

提出 長野県保険医協会 宮沢 裕夫

妊娠中の女性は、虫歯や歯周病になりやすく、また重度の歯周病の妊婦は早産や低体重出産になりやすいそうです。そのため県下77の市町村のうち27ですでに歯科健診を行っているとのこと。当町でも実施してほしい旨の陳情です。

### ●免税軽油制度の継続を求める請願

提出者 株式会社池之平ホテル&リゾート  
紹介議員 榎本 真弓

道路を走らない車両が使用する軽油に免税措置（1リットル当たり32円10銭）がされており、スキー場の整備車両や降雪機などに使われる軽油が該当する。令和3年3月末までが期限。継続を求める意見書提出の陳情。



### 香ばしい香り しょうゆ絞り

今週のパチ

香ばしい良い香りが漂ってきて、ご近所のKさんのお宅を覗くと、今年もしょうゆ絞りが行われていました。

一年間寝かせたもろみ（大豆と糶・塩）を木枠に入れて、上から板を載せ、圧力をかけて絞ります。ポタリ、ポタリと黒いしずくが滴り、おいしそうです。

# 生ごみのたい肥化施設を見学に 東御市・佐久市臼田地域

2020年12月より新クリーンセンター（佐久市平根地区）において、佐久市・御代田町・軽井沢町と共同で、可燃ごみの処理する予定です。

立科町の計画処理量は焼却1433 t /年、埋め立てなど含めて1471tが目標。しかし30年度実績量は1693トン。前年より30 t減ってはいますが、それでも計画量に対し、222 t /年の削減が必要となります。生ごみのたい肥化が可燃ごみ減量の要かと考え、東御市の生ごみリサイクル施設と臼田の佐久市堆肥製産センターに見学に行きました。

## 【可燃ごみの減量とたい肥化】

東御市にある川西衛生施設組合の焼却炉は閉鎖となりましたが、共同処理の枠組みはそのまま、可燃ごみは民間に処理を委託しています。人口減もあり、一般家庭からのごみ量は減少傾向ですが、観光地など事業系ごみは増え続けています。

以前、生ごみについて長和町との共同処理の話がありましたが、事業系のごみが入ることが知らされておらず、白紙に戻った経緯があります。

東御市の場合、可燃物の約4割が厨芥類（生ごみ）。その8割が水分だということで、水切りを徹底し、生ごみをたい肥化することで可燃ごみを減らし、またたい肥化することで資源として活用しています。可燃ごみはたい肥化する前と後で、1000 t減らしたそうです。焼却ごみを減らすことでCO<sub>2</sub>削減やたい肥化・土に戻すという資源循環を実践しています。気がつけば、周辺では長和町、佐久市望月町・臼田町・東御市・小諸市などたい肥化センターを持ち減量化・資源化に取り組んでいます。生ごみは燃やさず、たい肥化して土へ戻す。資源循環型社会を地域で作る必要があると考えます。ただし、収集運搬や処理委託費が別途かかります。3月議会で質問予定です。

## 【東御市の場合】 リサイクル施設エコクリーン東御



多数の穴があり水分が下に落ちる容器。蓋付き密閉式で臭いが漏れない。市が8割補助。(限度額3,000円)



ごみ収集日には生分解性のごみ袋に入れて出す。(10枚で200円)週に2回収集



このポリバケツが集積袋（フレコンバッグ）に。



生ごみが袋ごと集められ、作られたたい肥土を1:2の割合でかぶせて、ホッパーから投入され、ベルトコンベヤーで発酵槽へ



出来上がったたい肥土を生ごみに混ぜて、たい肥化促進。



水分が飛び、さらさらに。生ごみ500t投入し、製品は25tに(5%)。できたたい肥土は製品として市民に無料提供。残りはたい肥化のために生ごみに混ぜられ再利用される。



1%程度の異物混入がある。レジ袋などの異物は、この後ふりにかけられ除去される。生分解性ごみ袋は消滅。

臼田地域呉堆肥製産センターの様子は次号に。



第2次発酵槽(3つの段階の発酵槽にそれぞれ1週間づつ置かれる。空気が送り込まれて発酵が進む。ここで3週間)



1次発酵機 空気が送りこまれ好気性の微生物の働きで100°Cの高温になり、雑菌は絶える。1週間で2次発酵へ

処理場内部は二十扉や陰圧で、においが外に漏れない工夫がされている。臭気は集められて化学処理され、外気に放出。